

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0390100063		
法人名	有限会社 メルシー		
事業所名	グループホーム メルシー長橋		
所在地	〒020-0146 岩手県盛岡市長橋町3-47 (電話) 019-601-1680		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年5月7日

【情報提供票より】(平成21年2月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	理美容代・おむつ代実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(2月2日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	76 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人啓愛会 孝仁病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームメルシー長橋は、若い世代も多い新興住宅地に立地しているが、町内の行事にも参加し住民との交流を図っているほか、広報を地域のコンビニや商業施設等に置くことで、情報を発信しホームに対する理解・浸透に努めている。職員は「利用者さんをもっと知ろう」を目標に、一緒に生活する中から、その人らしさを引き出すよう努め支援しており、訪問当日は仲良し同士の楽しい会話や笑い声が聞こえ、利用者同士または職員との良好な関係が築かれていることをうかがえた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で話題となった項目の中の一つである献立や栄養についてのアドバイスについて、協力病院の栄養士の助言指導に基づいて献立表の作成をするなど、検討のうえすぐに取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、主任が主体となり職員からの意見を聞き、管理者がまとめている。全員で意義の理解をしながら第三者の助言、気付きを得てサービスの向上につなげている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に一回の頻度で開催されており、利用者の状況、ホーム行事の報告、評価への取り組みの報告等を行うと共に、地域高齢者との意見交換、ボランティアの紹介や小学校との交流機会などに関する話題があり、交流の輪の広がりに繋がっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に家族との話し合いの機会を利用し意見を聞いたり、また運営推進会議の場で意見、要望等を確認している。具体的サービスに関する要望等が出される事もあり、今後も意見、要望を大事にしその都度職員間で話し合いを行い、運営に反映していきたいとしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から町内会に加入し、回覧板の回付はもとより町内の行事(盆踊り会、演芸会鑑賞)や散歩を通して交流をしている。また、隣接する知的障害者更生施設「しいのみホーム」の毎月の行事へ参加するほか、避難訓練の協力を得ている。さらには、ホームをもっと知っていただくための外部用広報「メルちゃんだより」を回覧したり、近隣のコンビニエンスストアなどに貼ったりなどして、地元の人々と交流のきっかけづくりに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念である「ゆっくり、いっしょに、たのしみながら、一人ひとりその人らしさを大切に」および社訓「いつも適切な姿勢と誠実な心、ありがとうの気持ち」を定め、特に「その人らしさ」を大切にしたケアについて全職員で話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしさ」を重視した「利用者さんをもっと知ろう」を目標に、職員同士で考え、話し合いを重ねている。毎日の申し送り時や、毎月の職員会議の際にケア事例の検討を行うなど、理念に沿ったケアのあり方について話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から町内会に加入し、回覧板の回付はもとより町内の行事(盆踊り会、演芸会鑑賞)や散歩を通して交流している。ホームをもっと知っていただくための外部用広報「メルちゃんだより」を回覧したり、近隣のコンビニエンスストアなどに貼ったりなどして、地元の人々と交流のきっかけづくりに努めている。	○	地域交流の機会については、運営推進会議内で話題とされ様々な情報が得られており、あらゆる機会に地域との関わりを持ちながら、今後とも着実にホームに対する理解が深められるよう取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は主任が主体となって全職員で取り組み、管理者がとりまとめている。また前回外部評価時において気づきとなった献立表の作成については、協力病院の栄養士の指導を仰ぎ参考としながら取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、ホーム行事の報告、評価への取り組みの報告等を行うとともに、地域高齢者との意見交換、ボランティアの紹介や小学校との交流機会などに関する話題があり、交流の輪の広がりがつなげられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加の機会に情報交換を行うほか、普段の電話連絡、重要な相談や提出書類などは、出向くなどして、連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりなどは「家族だより」で写真つきでお知らせしているが、発行回数が毎月と増えており、より直近の状況を伝えるようにしている。職員の異動なども合わせて報告している。また、急変時はその都度連絡をしている。金銭の預かりはない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族との話し合いの機会を持っているほか、また運営推進会議の場で意見等を確認している。具体的サービスに関する要望等が出される事もあり、今後も意見、要望を大事にしその都度職員間で話し合いを行い、運営に反映していきたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所2年目にして、職員が固定化し馴染みの関係が築かれている。今後さらにチームで楽しくやりがいのある職場づくりに努めながら、引き続き利用者との馴染みの関係を深めていきたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、レク係、広報だより係、勉強係、掃除係と1月毎にかわる役割があり、勉強係が月1回の内部研修をテーマに沿って企画し全職員で勉強会を開いている。また外部研修の参加報告を行い、その内容を共有している。資格取得研修への参加についても勤務体制など配慮するなど、その支援に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回開催されるグループホームの定例会や、県の定例会に参加して勉強、交流している。今年度は隣のグループホームの訪問を通して勉強するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望に応じて数回の見学を受け入れたり、利用者の自宅に訪問し、環境や状況を観察するなど、納得し安心して利用できるよう対応している。職員は「利用者さんをもっと知ろう」を目標に家族と相談しながら、利用者が馴染むことのできるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の出来ることを引き出すように関わる一方で、利用者から身近な物を使った生活の知恵などを教わることも多く、尊敬する気持ちを持ちながら一緒に活動している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートの活用により思いを把握し、普段の会話や外出時、1対1で会話のできる入浴時や居室などで、できるだけ利用者の話を聞き、小さなことでも書きとめ、全職員で申し送りし共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時に話し合った内容などをもとに、月1回の個別のカンファレンスを開き介護計画作成に活かしている。今後は家族参加のサービス担当者会議の年間計画表を作成し、実行したいとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状を把握しながら、カンファレンスを経て、介護計画を検討するほか、利用者の状態変化時はその都度検討、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、買い物、ドライブ(小岩井雪祭り、つなぎ温泉の足湯など)、2ヶ月に1回の外食、美容院など外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医となっており、通院は家族同行を原則であるが、協力病院へは職員同行で支援している。また月1回協力病院による往診があり、一人ひとりの状態を把握し、情報を共有するとともに、医療機関との関係づくりを築きながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えたときに本人や家族の希望を最大限に尊重し、看取りの取り組みについて家族、協力医療機関、訪問看護と連携を図りながら支援することとしているが具体的な体験がないことから、対応や支援方法について、職員間で共有し勉強会を継続していきたいとしている。	○	重度化や終末期支援は、普段の会話のなかや本人らしさを支援していった延長上にあると考えられ、日々の生活やケアを大切にするとともに、本人と家族の安心と納得を得られるように、チームで継続的で素直に話し合える場、勉強会など持たれることを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄支援、トイレ誘導へのさりげない声かけなどについて、利用者の誇りやプライドを損ねないよう職員一人ひとりが心掛けているとともに、勉強会等の機会に確認しながらケアに活かしている。個人情報に関する記録の取り扱いについても保管(鍵つき倉庫)が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の健康状態や雰囲気気に気を配りながら、ペースに沿ったケアに努めているが、どうすれば利用者の心に向き合うことができるか、日々全職員で話し合いながら、より思いに沿ったケアを行いたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを利用者と職員がゆっくりと、一緒に楽しみながら行い、食事もとても和やか、畑の話題などで盛り上がりマイペースで摂っている。時には糸こんにゃくご飯を提供するなど糖尿病や便秘にも配慮された工夫となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本とし、利用者や家族の希望、その日の体調に合わせて個別に支援している。主に午前の時間帯に入浴支援しているが、就寝前に入浴を希望する方もおり、時間を制約することなく対応している。また言葉かけや対応の工夫で入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度、部屋掃除、手すり拭き、お茶準備、洗濯干し、たたみ、畑仕事など、得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援し、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、外食や足湯を楽しみに出かけるなど、外出が気晴らし支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩に出かけ、散歩コースにある東屋で休憩をし、隣近所の子供と触れ合いながら楽しんでいる。買い物、ドライブなど希望に添った外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーをつけているが、気配り、目配りを徹底して利用者の安全に配慮して、日中は鍵をかけることなく自由に出入りが出来るよう支援している。また居室にも鍵はなく、利用者は思い思いの場所で過ごしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災による避難訓練は消防署の指導の下、隣接の障害者施設との連携を図り年2回実施するとともに、防火管理者の資格を持つ職員の指導のもと自主的に月1回実施している。今後災害ボランティアとして消防団婦人部にも挨拶し協力要請することとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎日記録するとともに、利用者が好きな時に飲めるよう麦茶を用意して、水分補給状況を観察チェックしている。協力病院の指導のもと献立表をつくり、品数を多くまた酢の物やダシを利かすなど、塩分や糖分にも配慮した内容となっている。なお食前には消化を助けるだ液を出すための口の体操が楽しく行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は小上がりの畳敷きの間があり、テレビやソファが配置され、利用者をつくった大きなお雛様や、雪をいただいた岩手山の貼り絵、千羽鶴の飾りつけなど季節感をかもし出していた。また、風船バレーや紙風船卓球などのレクリエーションを全員で楽しむことのできる空間ともなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れた家具や寝具や生活用品や、畳を持ってきてる利用者もいて、家庭の延長的雰囲気なかで、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また刺繍が好きな利用者の居室には、刺繍用の材料があつたりと、趣味や得意なことを継続できるような支援をしている。		